

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102828		
法人名	社会福祉法人 敬友会		
事業所名	グループホーム コスモス		
所在地	岡山市北区田中109-112		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 9 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370102828-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ブランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 6 年 2 月 27 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敬友会の理念に基づき、ご利用者様の今まで過ごされてきた生活を大切にし、その人らしい生活が継続出来るように、入居されてからも趣味や嗜好等、楽しみのある生活を送っていただけるように援助している。季節ごとに様々な行事を計画し、ご利用者様と一緒に作品作りや思い出作り、美味しい食を味わったりして共に笑顔あふれる日々が過ごせるよう取り組んでいる。地域やご家族様との関係も大切にし、ご家族様からのご要望にも臨機に答えられるよう努めている。ご利用者様の生活のご様子をご家族様へのお手紙やコスモス新聞、SNSなどでお知らせしている。職員は、法人内のキャリアアップ研修やユニット内での勉強会に参加し、知識習得に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的で落ち着いた雰囲気の中、利用者は個々のペースで新聞のコラムを書き写したり、ぬり絵やパズルなどをして余暇を楽しんでいる。行事を通じて家族と深く繋がり、利用者がのびのびと笑顔で生活できるホームを目指している。優れている点として挙げられるのは、以下の2点である。まず、スタッフの介護にゆとりがあり、徘徊のある利用者に対しても慌てず、その人に合わせて寄り添えていること。これは、管理者が在宅の雰囲気に近づけ、利用者が笑顔で過ごせるような目標を持っているからであり、その為にすべきことがスタッフ間で共有され、同じ方向に合わせた対応がなされていることが伺える。次に、普段の生活や毎月行っている行事等の様子をコスモス新聞やInstagramを通じて家族に発信し、情報共有していることがある。工夫点は、利用者の動線を考え、リビングや廊下に小さな休憩スペースや椅子などを配置していることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の新人研修をはじめ、ユニット内での勉強会で定期的に理念とミッションを確認し、全職員が理解していけるよう努めている。	ホールに理念を掲示すると共に、勉強会の中で周知している。また、理念を基に目標を設定し、日常生活の中で「笑顔」が引き出せるように日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の公園清掃に参加したり、回覧板にコスモス新聞を回していただき、地域との交流を深められるよう努めている。	町内会に入会し、コスモス新聞を毎月回覧している。また、地域の夏祭りやカラオケ大会に利用者と一緒に参加したり、ハンドケアのボランティアや実習生を受入れたりして、地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やコスモス新聞などで地域の方々に理解して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告や情報提供を行い、町内会長や民生委員、ご家族様等にご意見ご要望を頂いてサービス向上に向けて取り組んでいる。	事業所内のリビングで、家族や町内会長、民生委員、包括支援センターが集まり、2ヶ月に一回、開催している。利用者の生き生きとした様子を分かりやすく伝えるために、コスモス新聞やInstagramを活用して、近況や行事報告などを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの問い合わせや提出書類には迅速に対応するようにしている。運営推進会議などでも事業所の活動報告を行い、日常的に連携、協力関係を築いている。	分からない事があれば、その都度、グループ主任を通じて行政に電話等で確認している。普段からの関係も良好であり、何でも話し合える・相談できる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束防止委員会を開催し、職員間で勉強会や意見交換を行い拘束のないケアを行うよう努めている。	委員会や勉強会を通じての周知や学習、虐待チェックリストによる自己評価を行っている。特に、きつい言い方も、「スピーチロック」「暴言」に該当するとして、職員の心理状態やその時の対応方法など、意識改革について重点的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会を開催し、勉強会や振り返りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が必要としていることを活用できるよう支援している。また、カンファレンス等で職員への勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、改定時には都度説明を行い、内容についてご理解納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々接する中で、または面会時や運営推進会議のアンケート内でご意見ご要望をお聞きし、反映できるよう努めている。	家族は面会時や運営推進会議のアンケート、利用者は日々の生活の中で意見や要望を聞き取っており、普段から言いやすい関係が築けている。出された意見は、パーマのかけ直しやカラオケ、畑仕事などに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で職員が気付いたことや意見、提案をカンファレンスで話し合い、反映できるよう努めている。	勤続年数の長いスタッフが多く、何でも話せる関係が築けている。今後、個別面談を実施し、悩みや今後の目標等を聞こうと思っている。出された意見や提案は、花の植え替えや外部研修への参加、就業時間などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ研修や外部研修への参加を通じて知識習得や資格取得の機会を設け、意欲、やりがいを持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて法人内外の研修への参加の機会を設け、キャリアアップできるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や、他施設との合同研修に参加し、他職員との交流を通じて、広い視野で学んでいけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時はもちろん、入居後も日々の中から要望や不安に思うことを伺い、職員間で情報共有が出来るようにしている。利用者ごとに担当職員を配置し、より深く要望を聞き取れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との対話を通じて困っていること、不安なこと、要望の聞き取りに努め、関係作りが出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を伺い、何を必要とされているのか見極め、必要な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人が出来ること(洗濯物たたみやお盆拭き、花の水やり)をして頂き、役割を持って生活して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ日頃の様子をこまめに報告し、また以前の様子も伺いながら共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの人が気軽に訪ねて来られるよう声掛け案内をしている。	毎月家族に手紙を出したり、ケアプラン更新月に声かけしたりして、馴染みの関係を維持している。また、電話の取次ぎや年賀状のサポート、インスタグラムによる情報発信も行っている。	馴染みの場所へのドライブなど、個々に対応できる機会の創出に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に洗濯物をたたんだり、アクティビティを通じて関りが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にもお手紙を出したり、必要時には相談、支援が出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで生活されてきたスタイルを出来るだけ続けて頂けるようにしている。朝食はパン食だったり、庭で野菜作りをして頂いたり、本人の意向や思いに沿えるよう努めている。	普段の会話や様子から希望や意向を汲み取っている。意思表示の難しい方は、事業所目標である「笑顔」であることを基準に、入居者の状況からケアの方法をその都度検討したり、家族からも好み等の情報を聞き取りして把握してる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や、本人との日々の会話の中での思い出等、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々本人の状態把握を行い、ケアプランに記載し職員間で情報共有を行い、本人の力を発揮できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から聞き取りを行い、必要に応じて主治医やリハビリスタッフと連携し、本人の希望に寄り添いケアプラン作成を行っている。	ケアプランの見直しは3ヶ月に一回、モニタリングは毎月行っている。プラン作成の際、家族からの意見も毎月確認している。また、主治医や法人内の作業療法士によるアドバイスもケアプランに反映している。状態変化に柔軟に対応し、実効性のあるプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を介護日誌や個人記録、看護記録に記載し、出勤時に全職員が確認して情報共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者1人1人の状態やニーズに対応できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園に散歩に出掛けたり、スーパーで食材を購入したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医にお願いしている。	ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。協力医が月2回訪問しており、24時間体制で適切な医療を提供している。また、いつでも気軽に連絡・相談できる関係が築けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中での気づきや情報は看護職員へ報告し、必要に応じて受診や医療との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院関係者との情報交換をこまめに行い、早期退院へ向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の意向や要望を聞き、グループホームでできることを説明し、方針の共有、チーム支援を行えるよう取り組んでいる。	看取りを実施している事業所であり、入居時に出来ること・出来ないことを説明している。重度化した時は、主治医が家族に説明し、看取り介護計画書(ターミナルプラン)で確認・同意を得ている。年1回の看取り研修やデスカンファレンスを実施し、職員の不安軽減と技術向上に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施している。また、カンファレンスなどでも起こりうる事故や急変時の対応を検討し、訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回災害時に備えた訓練を実施し、全職員が対応できるよう取り組んでいる。	年2回、火災と地震、水害を想定した訓練を実施している。訓練には利用者も参加している。備蓄品は事業所の詰め所、向かいのデイサービス2階に水や食料などを確保している。訓練には地域の消防団が来ることもある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の個性を大切にその人の生活リズムに合わせるようにしている。入室時の声掛けや接する態度表情にも気を付けるようにしている。	さん付呼称を基本とし、その人その人に合わせて敬語を使い分けている。また、利用者の尊厳を下げるような言葉使いは禁止している。職員の身だしなみは日頃から注意しており、カンファレンスの中で接遇に関する勉強会を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着る服や飲み物、食事や入浴など、都度本人に確認し、思いに沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の状況に合わせて食事や入浴など希望に沿った支援が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選んでもらったり、行事や外出時にはお化粧をしておしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きな物、食べたいものをお聞きし、提供できるようにしている。また、畑で野菜を育て、一緒に収穫した食材を使用し料理を楽しんでいただけるようにしている。	月2回、三食手作りの日を設けたり、行事でバイキング形式や弁当・お節風の食事を提供したりして、食事を楽しんでいる。また、畑で採れた物でおやつを作ったり、定期の食事に出したりしている。距離と時間を取りながら、利用者と同じ物を職員も食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事水分摂取量の把握を行い、栄養状態や体重の変動などにも注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時食後に口腔ケアを行っている。必要に応じて定期的に歯科往診を行い、口腔ケアについての勉強会やアドバイスもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレで排泄できるように取り組んでいる。	日中は基本的にトイレを使用するよう誘導介助している。日頃の介助や排泄表から個人の仕草やトイレ時期を把握している。法人からオシメ担当の人が来て勉強会を行っており、利用者に合わせたパット・オシメを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事水分に気を配ったり、リハビリ職員へ便秘対策に向けた運動などアドバイスをもらい取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望に合わせて入浴時間や浴槽に浸かったりと個別に対応できるようにしている。	週2回の入浴を基本とし、リフト浴や足浴、清拭にも対応している。また、一人ひとりお湯を入れ替えたり、ゆず湯を提供したり、歌を歌ってコミュニケーションを図りながら、より入浴が楽しめるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう生活リズムを整えるとともに、本人の状態に合わせて、日中も休息出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や変更があった時は目的や副作用などの確認を行っている。分からないことがあるときは薬剤師への確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴から日々の中での役割や楽しみ(洗濯物たたみや新聞読み、塗り絵、草取り)を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時候の良いときには公園まで散歩に出掛けている。	個別に事業所周辺を散歩したり、公園に行ったりして気分転換を図っている。また、買い物ついでにドライブに出かけることもある。家族と一緒に一泊旅行やメガネを作りに出かける利用者もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理して頂くことも出来る。希望があれば買い物の支援も行えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に家族へ電話をしたり、毎月手紙を書いてやり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花や飾りを設置し、四季を感じられるようにしている。また、周りの雑音や温度などの刺激にも注意を払い環境を整えている。	建物内のリビングのテーブルは、感染予防や利用者の特性に合わせて配置している。また、利用者の動線を考えて、小さな休憩スペース(数カ所)や中庭のウッドデッキの草花を眺めながら寛げる場所もあり、利用者の居場所作りが出来ている。そして、事業所内の植物の種類や配置により、施設感を軽減し、家庭らしさが出るよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが好きな場所で居心地よく過ごせるよう、ソファを配置したり、中庭が見える日当たりの良い廊下に椅子やくつろげるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具や寝具、壁飾りなど愛用の品を持ってきていただけるようお願いをしている。	居室には、自宅から持ってきたタンスや写真、本などが持ち込まれている。また、自身で作った作品や習字作品などが飾られている。居室内は広く、自由に持ち込みが出来るため、利用者ごとに個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の状態に合わせてベッドの位置や家具の配置を行い、安全な移動動線の確保、居室環境を作るようにしている。		